

[2017年7月10日]

鉄建建設株式会社 経営戦略室 広報部

東京都千代田区三崎町 2-5-3 〒101-8366

TEL 03-3221-2297 FAX 03-3221-2379

視覚障害者の鉄道施設体験学習会を実施

～鉄建建設総合技術センターで駅のホームや踏切設備などを体験～

■鉄建建設株式会社（本社：東京都千代田区、社長：林 康雄）は、2017年7月10日東京都盲人福祉協会の視覚障害者の会員、および介助者の方々23名と盲導犬3頭を建設技術総合センター（千葉県成田市新泉9-1 野毛平工業団地内）に受け入れ、鉄道施設を実際に触れて体験する学習会を行いました。

当社では、2011年より同様の取り組みを行っており、昨年は千葉県立千葉盲学校と市原福祉会館へ体験学習の機会を提供しました。今回は、東京都盲人福祉協力会から依頼を受け、初めて盲導犬と一緒に参加する学習会となりました。

日頃、視覚障害者の方々は駅のホームからの転落や、踏み切りを通過する際の触車など、危険と隣りあわせで生活されています。当社では研修施設の模擬鉄道設備を利用して、ホームやレールの構造、非常停止ボタン、踏切設備などに直接触れて体感することで、駅や鉄道の仕組みを理解していただくことが可能です。視覚障害のある方々が安全に安心して生活できるよう、お手伝いを実施しています。



非常停止ボタンの説明



ホーム下から高さを体感



ホーム下への非難を体験



踏切の線路の溝を確認

■見学会の内容

時間：13:30～鉄道設備見学、15:10～質疑応答

参加者：東京都盲人福祉協会 会員 13名、介助者 10名、盲導犬3頭

■見学会では、駅のホームと周辺の線路上設備、踏切設備の体験をしてもらいました。まずホームの高さをホームの上と下から触れて、自力でのぼることが大変な高さであることを実感してもらいました。次にホーム上にある非常停止ボタンについて講師が説明したあと、実際に一人ひとりにボタンを押してもらいました。その後、レールの間隔やホーム下の空間、検知マット（非常停止ボタンと同様に踏むと列車を止めることができる）を体験し、転落した場合における避難場所や対処方法を体感してもらいました。踏切設備では、踏切の線路の溝を確認しながら渡ったあと、非常停止ボタンや障害物検知器を講師が説明しました。

■参加者からは「今回の体験で視覚障害者の転落防止のためホームドアなど設備の拡充以外にも、まずは自分たちで体験し、学んで身を守ることが大切だと思いました。」「盲導犬にとって、今回の実体験施設はあまり経験のないことでしたので、誘導される私たちも大変でしたが、施設に触れる経験ができてよかったです。」などの感想をいただきました。東京都盲人福祉協会 大川和彦氏からは「ホームの高さを理解していたつもりでしたが、実体験で思っていた以上に高さがあり、改めて勉強になりました。この見学会を多くの人にお知らせして、また参加したいと思います」とコメントをいただきました。

■建設技術総合センターでは、社員の研修だけでなく、団体・企業や大学生などにも施設を使ったカリキュラムを実施し、様々な研修を行っています。また、地域の皆さまや小学生を対象とした鉄道の安全に関する見学会なども積極的に行っています。今後も、幅広く施設を利用・活用していただき、地域や社会に貢献できる企業をめざします。

□建設技術総合センターについて

建設技術総合センターは「研究開発センター」と「研修センター」の二つの機能を有する当社保有の施設です。敷地内には各種研修設備のほか、延長約150mの本格的な複線線路（実習線）を有し、その両側には鉄道駅を模した実物のホームやエスカレーターなどの設備で構成されています。また夜間研修も可能で、実際の鉄道工事を再現した本格的な研修から様々な外部依頼研修や訓練・学習を行っています。

昨年度は約3000人を受け入れました。



建設技術総合センター（屋外研修フィールド）

以上